

KORG POLYSIX

PROGRAMMABLE POLYPHONIC SYNTHESIZER

プログラマブル ポリフォニック シンセサイザー コルグポリシックス

取扱説明書



KORG®

この度はコルグ製品をお買
上げいただき、ありがとうご
ざいます。

コルグ ポリシックスを最良
の状態でお使いいただくため
に、この取扱説明書をよく読
んで、正しい方法でご使用く
ださい。



ポリシックスの特徴

KORG POLYSIX PROGRAMMABLE POLYPHONIC SYNTHESIZER



32種類の音色をメモリーできる61鍵の6ボイスプログラマブルポリフォニックシンセサイザーです。



メモリーした音色をさらに修正したり、修正したプログラムを再度メモリーできるエディット機能を装備しています。



6つのVCOを同じ音程で演奏させ厚みのある単音が出せるユニゾン機能、あらかじめメモリーした和音を1キーで平行和音演奏できるコードメモリー機能も装備しています。



アルペジエーターで自動的にアルペジオ演奏が行えます。モードやレンジの切り換えで多様なアルペジオパターンを演奏できます。



コーラス/フェイズ/アンサンブルの3種類のエフェクトも装備しています。このセッティングもメモリーできます。



テープインターフェースにより自分でつくったサウンドを無限にカセットテープ等に保存しサウンドライブラリーを作ることができます。



ピッチ・ベンドとピッチ・モジュレーションの2つのコントロールホイールにより表情のある効果的な演奏が可能です。

接続のしか

リアパネルのジャック/ スイッチの名称と機能

① FROM TAPE, TO TAPE

テープレコーダーと接続してプログラマーのデータをテープにストックしたり、テープに録音されたデータをプログラマーにロードしたりするための入出力ジャックです。FROM TAPEはテープレコーダーの出力ジャック(ラインアウト、イヤホン、ヘッドホン端子等)と、TO TAPEは録音ジャック(マイクイン、ラインイン等)とそれぞれ接続します。使用するテープレコーダーの入出力端子に合わせて2つのジャックの入出力レベルをHIGH(ラインレベル)/LOW(マイクレベル)の2段階に切り換えてください。

② CHORD MEMORY

打鍵した6音までの和音をメモリーして1キーで平行和音が演奏できるコードメモリーを、パネル面のキーアサインナーにあるスイッチの代りにフットスイッチ(S-1, PS-1等)でリモートコントロールするためのジャックです。両手で押えたコードをメモリーする時に便利です。

③ ARPEGGIO TRIG IN

アルペジオのテンポを外部のトリガー信号でコントロールするためのジャックです。リズムマシンやシンセサイザー、シーケンサーと同期したアルペジオ演奏ができます。

④ VCF fcM IN

VCFのカットオフフリケンシーを外部のフットペダル(MS-01, 04)などでコントロールし、足許で音色を変化させることができるジャックです。

⑤ PHONES

ステレオヘッドホン用の出力ジャックです。ポリシックスのサウンドをモニターできます。(出力はモノラルです)

⑥ OUT PUT

ギターアンプ、キーボードアンプやステレオアンプ、PAアンプ等に接続するための出力ジャックです。

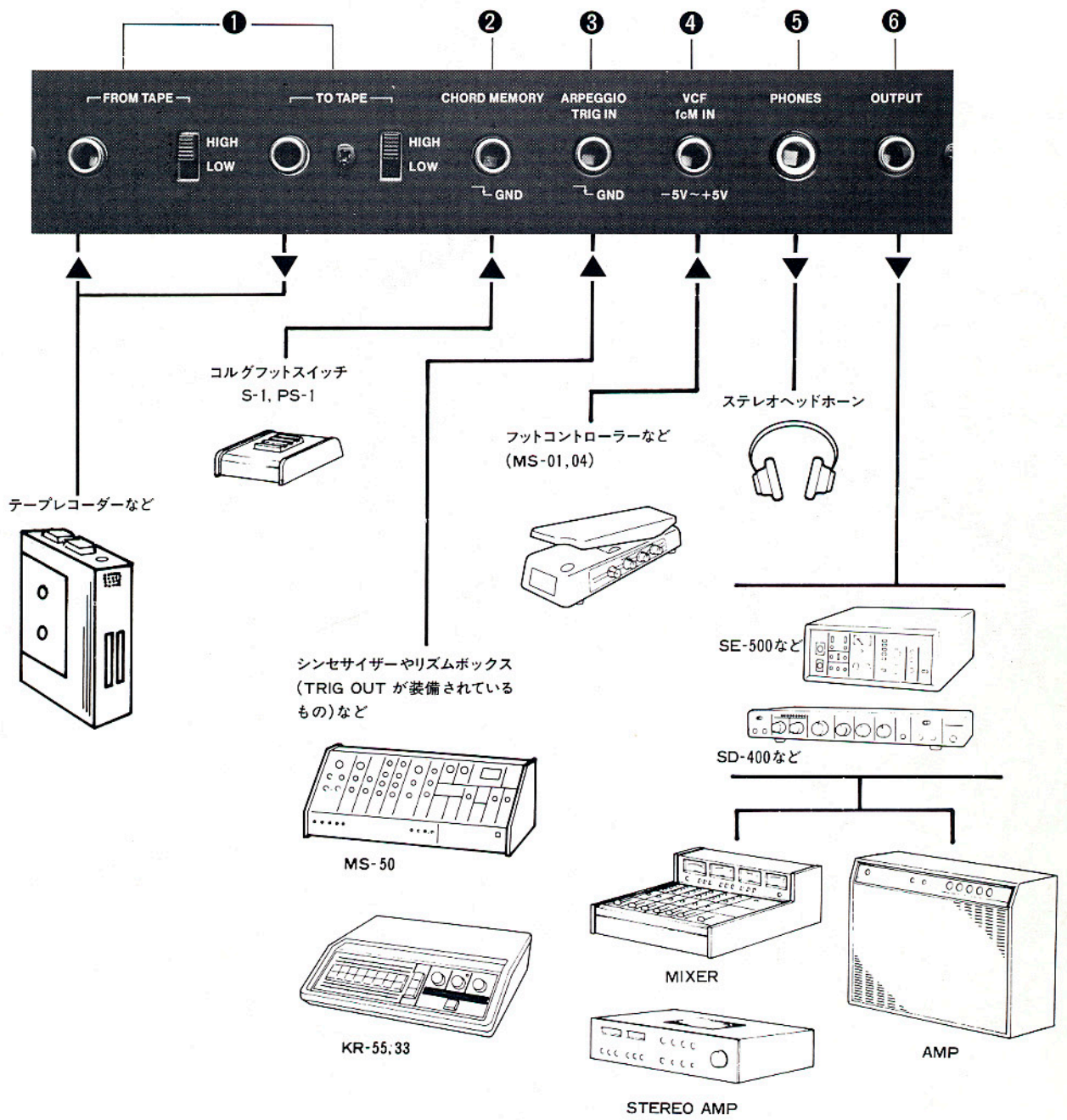
使用上の注意

●必ずAC100Vの電源コンセントに電源コードのプラグを差し込んでお使いください。タコ足配線などによって電源が100Vより低い場合には、雑音が出たり、音質が悪くなることがありますので注意してください。電源の電圧が低いと思われる場所で使用する場合には、できるだけテスターなどで、電源

の電圧を確認してから電源を入れてください。

- 入出力ジャックには、標準ホンプラグ(付属の接続コードのプラグと同じ形のもの)以外は、絶対に差し込まないでください。
- 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所、また、ほこりの多い場所での使用はなるべく避けてください。

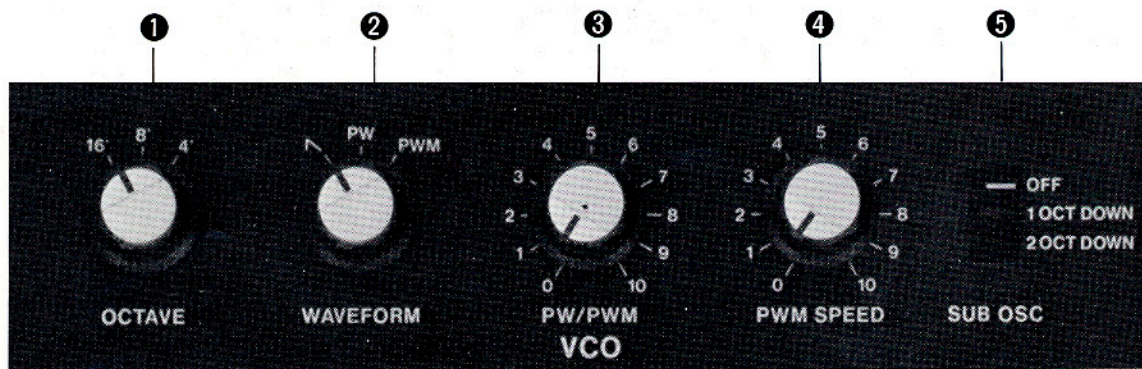
- 本製品はマイクロコンピューターを使用しているため一度電源をオフにして、またすぐオンにした時、正常な動作をしないことがあります。その場合、もう一度電源をオフしてから10秒ほどたってから電源をオンにしてください。



各部の名称と機能

〈メモリーされるコントロールセクション〉

VCO



VCOとはVOLTAGE CONTROLLED OSCILATORの略で電圧制御発振器です。シンセサイザーでは音源の役割で、音の高さ(音程)と波形(基本の音色)を決定します。

①OCTAVE

オクターブの切り換えスイッチです。16'、8'、4'と数字が小さくなる程、1オクターブずつ高くなります。

②WAVEFORM

音色決定の基本となる波形を選ぶスイッチです。┌ (鋸歯状波)、PW波、PWM波があります。

●鋸歯状波

倍音(ハーモニクス)を豊富に含むVCFでの加工が効果的な波形です。艶のある音づくりに適しています。

●PWM波/PW波

PWはパルスウィズの略です。PW波は矩形波(┌┐)からパルス波(┌)までデューティー比(パルスの幅)を変化できます。倍音構成が変化するので音色が大幅に変わります。PWM波はデューティー比が周期的に変化する波形です。コーラス効果やフェイズ効果を得ることができません。

③PW/PWM

WAVEFORMをPWとPWMにした時にパルスの幅をコントロールするためのつまみです。WAVEFORMをPWの時は、そのつまみが0の場合はパルス巾が広い(デューティー比1:1)矩形波で、10の方向につまみを回していくとパルス幅が狭くなっていき音色が大幅に変化します。つまみが8~10で音が出ない状態になります。VCOをOFFしてVCFの発振音で音創りする時にはこの設定(WAVEFORM:PW、PW/PWM:10)にしてください。

WAVEFORMをPWMにした時にはPWM(パルスウィズモジュレーション)の効果の深さをコントロールします。PWM SPEEDで設定した周期でパルス幅が変化します。

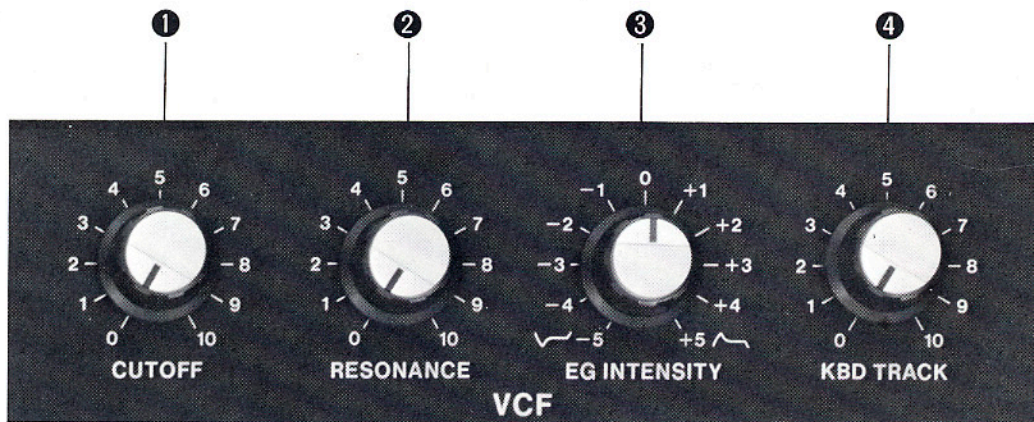
④PWM SPEED

WAVEFORMをPWMにした時、効果の周期の速さを調整するつまみです。スピードが遅いとフェイズサウンド、速いとコーラスサウンドになります。

⑤SUB OSC

サブオシレーターはVCOの音にさらに1オクターブあるいは2オクターブ下の音を加えて音の厚みを増すことができます。スイッチで1オクターブ下か2オクターブ下かを選べます。

VCF



VCFはVOLTAGE CONTROLLED FILTERの略で電圧制御のフィルターです。働きは音色のコントロールです。

① CUTOFF FREQUENCY

VCOからの信号の倍音成分を、周波数の高い成分から順に削り取るローパスフィルターのカットオフ周波数を調整します。つまみを10にするとVCOからの信号が加工されずに出力されます。0の方向につまみを回して行くと音色が柔らかく丸い音になっています。

② RESONANCE

カットオフ周波数付近の音を強調して音にクセをつけるつまみです。シンセサイザー特有のサウンドが得られます。つまみを8以上にすると自己発振を起こし、音源として使用できます。

③ EG INTENSITY

EG(エンベロープジェネレーター)でカットオフ周波数を変化させるためのつまみです。右に回すと、音量変化と音色の変化が比例するサウンドが、左に回すと反比例する特殊なサウンドが得られます。

④ KBD TRACK

打鍵された鍵盤に比例してカットオフ周波数を変化させるつまみです。例えばバイオリン、トランペット、サックス等の音は音程が高くなるに従って音色が明るくなりますが、このような音づくりにはこのつまみは大変効果を発揮します。

VCA

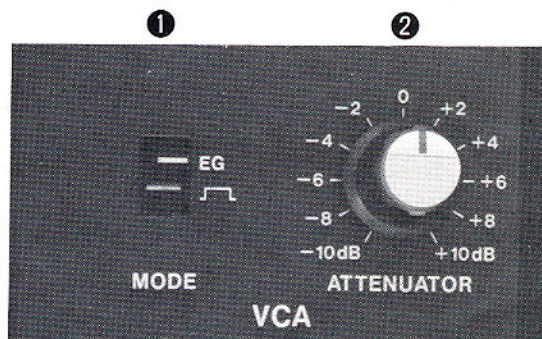
VCAはVOLTAGE CONTROLLED AMPLIFIERの略で電圧制御のアンプです。働きは音量のコントロールです。

① MODE

音量のコントロールをEG(エンベロープジェネレーター)で行うか、EGに関係なく固定されたオルガンのエンベロープで行うかを切り換えるスイッチです。

② ATTENUATOR

プログラムされる音量調整です。作ったサウンドに応じて音量がプログラムできます。



EGはエンベロープジェネレーターの略で打鍵、離鍵による音量の変化、および音色の変化をコントロールするモジュールです。

① ATTACK

打鍵してから音量が最大になるまでの立ち上がり時間を調整するつまみです。

② DECAY

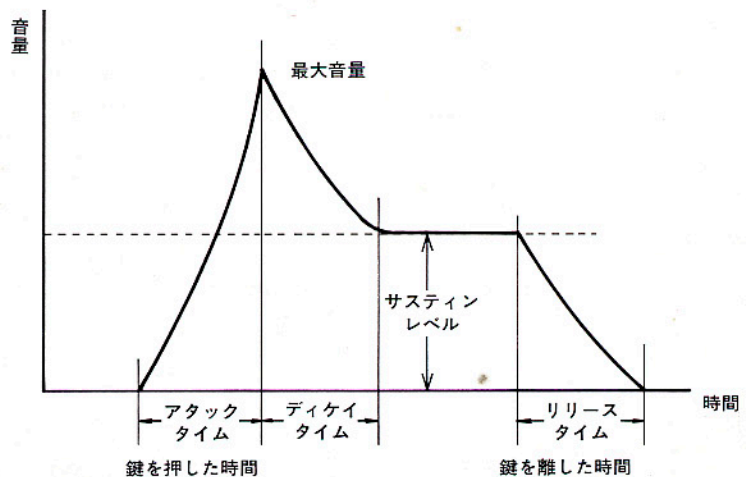
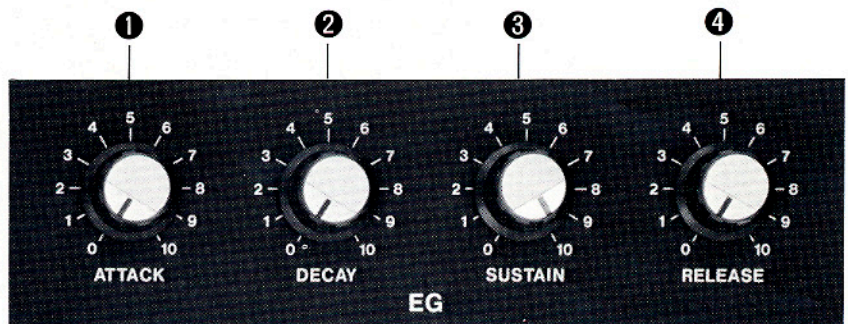
音量が最大になって（アタックタイムが終つて）からサステインレベルまで音量が減衰する時間を調整します。

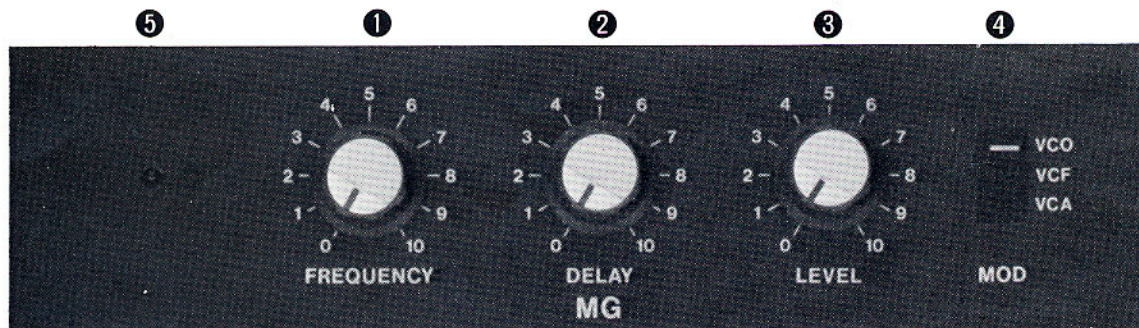
③ SUSTAIN

打鍵されたままの状態を持続し続ける音量を調整するつまみです。

④ RELEASE

離鍵後に音が消えるまでの時間を調整するつまみです。





MGはモジュレーションジェネレーターの略です。ビブラート(VCOの変調)やワウワウ(VCFの変調)、トレモロ(VCAの変調)などの効果を作り出します。

① FREQUENCY

ビブラートなどの効果の周期を調整するつまみです。周期は⑤のLEDの点滅で表示されます。

② DELAY

打鍵してからビブラートなどの効果が始まるまでの時間を調整するつまみです。つまみが0の時は打鍵と同時に効果がかかります。10の方向に回して行くと効果が始まるまでの時間が長くなります。

④ LEVEL

ビブラートなどの効果の深さをコントロールするつまみです。コントロールホイールとは関係なく調整できます。

⑤ MOD

効果を選ぶスイッチです。VCO(ビブラート)、VCF(ワウワウ)、VCA(トレモロ)の3つから選びます。同時に2つの効果を得たい時は、コントロールホイールでビブラートをコントロールし、MGのMODではVCFかVCAを選んでください。

EFFECTS

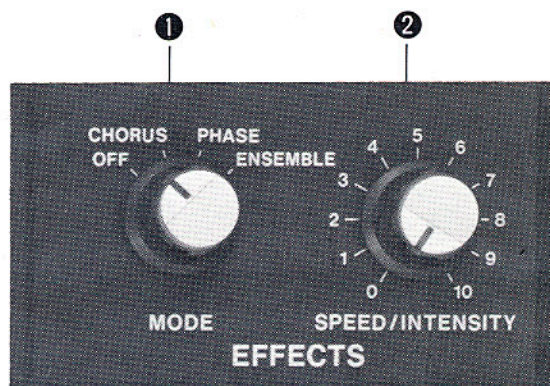
アンサンブルやフェイズ、コーラスなどの空間的な拡がりを作り出すエフェクトを装備しています。これもメモリーすることが可能です。

① MOD

エフェクトのモードを切り換えるスイッチです。コーラス、フェイズ、アンサンブルから選べます。コーラスは拡がりや厚みのあるサウンドが、フェイズは音がうねるような効果が得られます。アンサンブルは合奏効果と呼ばれ、ストリングスサウンドなどを作る時に大変効果があります。

② SPEED/INTENSITY

エフェクトの周期と効果の深さを調整するつまみです。コーラスとフェイズのモードの時には0でスピードは遅く、10の方向に回す程速くなります。不自然さをなくすため効果の深さは周期が遅い時に深く、速くなるに従って浅くなります。アンサンブルのモードの時はスピードは一定で効果の深さだけのコントロールとなります。0の時は浅く、10の方向に回す程深くなります。



〈メモリーされないコントロールセクション〉

TUNE/BEND/OUTPUT

① TUNE

ポリシックスのピッチ(音程)を調整するつまみです。他の楽器と音程を合わせる時に使用します。

※チューニングをする時の注意

他の楽器とのチューニングをする場合にはなるべく鍵盤の中央付近のキーで合わせるように心がけてください。

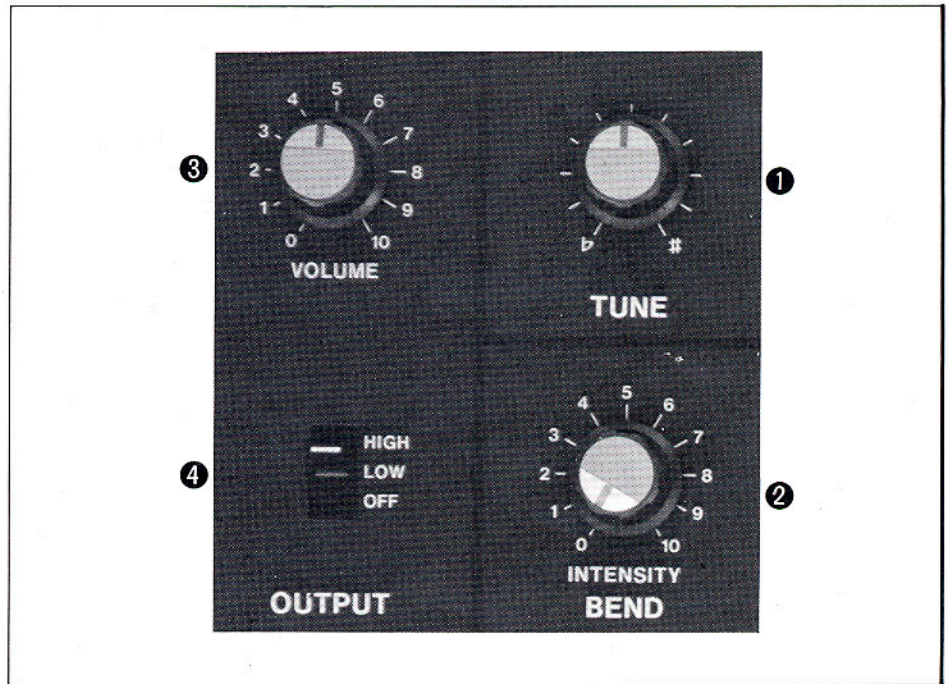
② BEND

ホイールによるピッチベンドのコントロールです。INTENSITYのつまみで変化するピッチの幅を調整します。

③ ④ OUTPUT

最終出力の音量を調整するセクションです。

④のスイッチで使用するアンプに合わせて出力レベルを選び③のボリュームで音量を調整します。使用するアンプがギターやキーボードアンプの時はLOW、オーディオアンプ、PA及びオーディオミキサーなどの場合はHIGHにします。OFFのポジションはステージ等で音を出力せずにヘッドフォンでポリシックスのサウンドをモニターすることができます。



ARPEGGIATOR

アルペジオ演奏を自動的に行うアルペジエーターです。ベースパターンや伴奏などに大変効果があります。

① SPEED

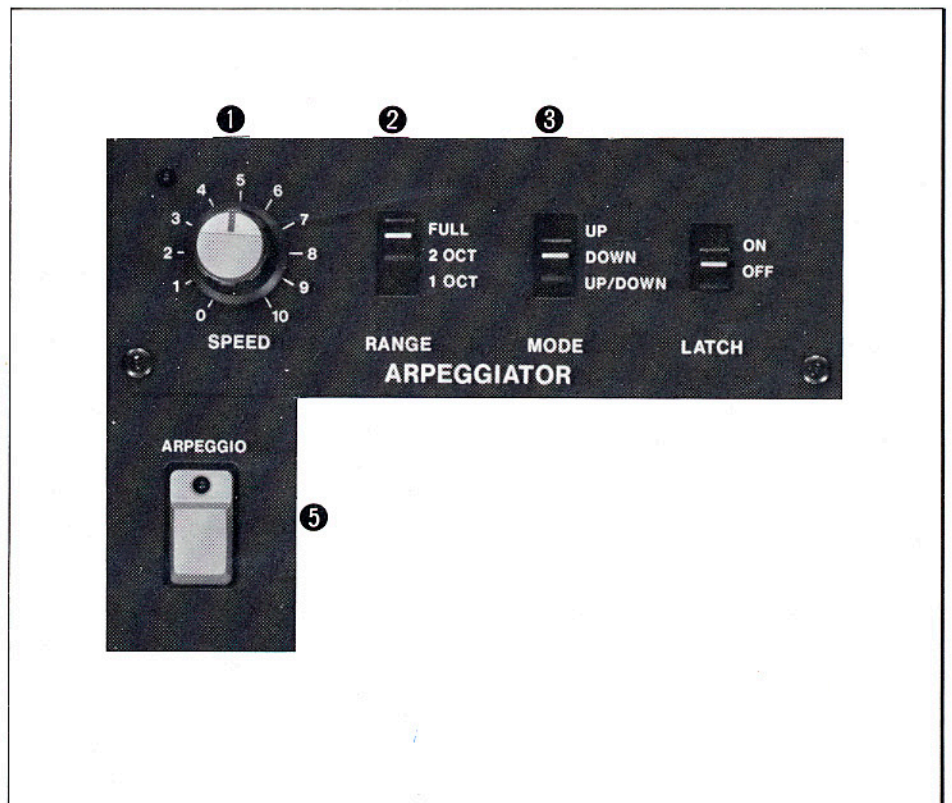
アルペジオ演奏のスピードを調整するつまみです。10の方向に回す程スピードは速くなります。

② RANGE

アルペジオの演奏範囲を設定するスイッチです。1 OCTでは押されている鍵のみのアルペジオを演奏し、2 OCTでは押されている鍵とその鍵より1オクターブ上の同音名の鍵の範囲でアルペジオ演奏を行います。FULLでは押されている鍵とそれよりも高いオクターブの同音名の鍵を61鍵の範囲でアルペジオ演奏します。もしその範囲を超えた時は最初からアルペジオを再び始めます。

③ MODE

アルペジオのパターンを3つの中から選びます。UPは押されている鍵の最低音から上方に、DOWNはそのレンジで行き着く最高音から下方にアルペジオ演奏を行います。UP/DOWNは押されている鍵の最低音から上方に演奏を行い最高音に達すると再び下向してきます。



④ LATCH

ラッチとは離鍵してもアルペジオ演奏が続く効果です。ラッチをオンにした場合、ひとつでも打鍵しながら、さらに新しい鍵を押した時は、その音はアルペジオ演奏に組み込まれます。一旦離鍵した後、再び打鍵した時は新たに押された鍵のアルペジオ演奏を行います。

⑤ ARPEGGIO

アルペジオのオン/オフを行うスイッチです。オンでLEDが点灯します。アルペジオ演奏が始まるタイミングは打鍵した瞬間です。

● アルペジオ演奏の手順

1. アルペジオの RANGE と MODE を選びます。
2. ARPEGGIO をオンにします。離鍵してもアルペジオ演奏を続けたい時は LATCH をオンにします。
3. アルペジオ演奏したいキーを押します。
4. 離鍵すればアルペジオ演奏は止まりますが、LATCH の場合は LATCH のスイッチをオフするか ARPEGGIO をオフにすれば止まります。

KEY ASSIGN MODE

ポリシックスの機能をフルに発揮するためのキーアサインモードです。ポリフォニックシンセサイザーあるいはモノフォニックシンセサイザーとして使い分ける重要なセクションです。

① HOLD

このスイッチをオンにすると、各モードで打鍵した音あるいはスイッチオンの後に打鍵した音がホールド状態（音が出たままの状態）になります。

② CHORD MEMORY

打鍵した6音までの和音をメモリーしてワンキーで平行和音を演奏できます。

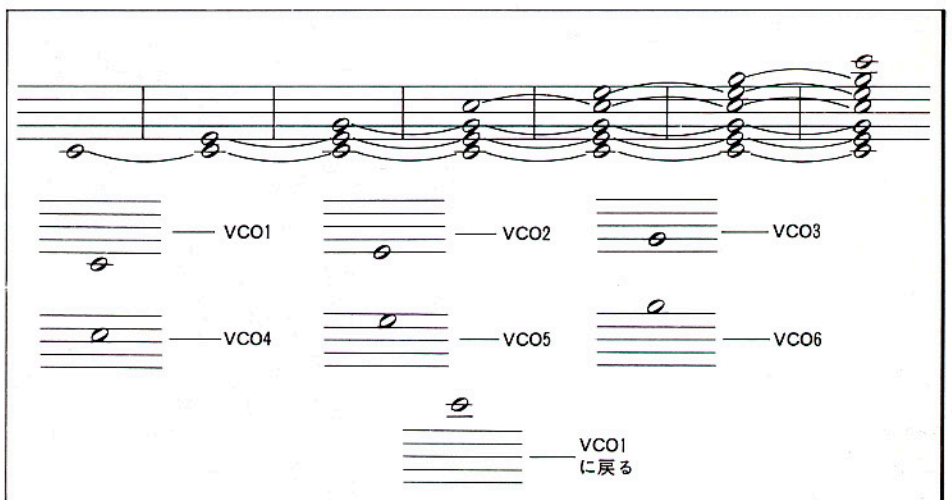
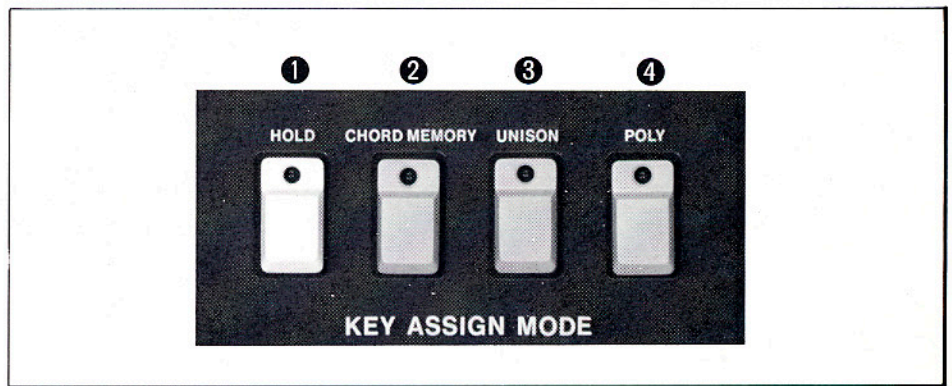
メモリーはキーアサインモードを POLY にして行います。メモリーしたいコードを押えたまま CHORD MEMORY のボタンをオンするか、HOLD をオンにして和音を鳴り続けさせて CHORD MEMORY のボタンを ON するか、2つの方法があります。

(注意)

一度メモリーした和音は再度メモリーするか電源をオフするまでメモリーされます。キーアサインモードを切り換えてもコードメモリーの内容は変わりません。ただし POLY MODE でキーを押したまま、あるいはホールドしたまま CHORD MEMORY MODE に切り換えるとメモリーの内容は変わってしまいます。電源を一度オフして再びオンにした時は CHORD のメモリーの内容は UNISON (6つの VCO がすべて同じ音程) と同じになります。

③ UNISON

ポリシックスをモノフォニックシンセサイザーとして使うモードです。6基の VCO が同時に同じ音程で鳴るので厚みのある豊かなサウンドが得られます。

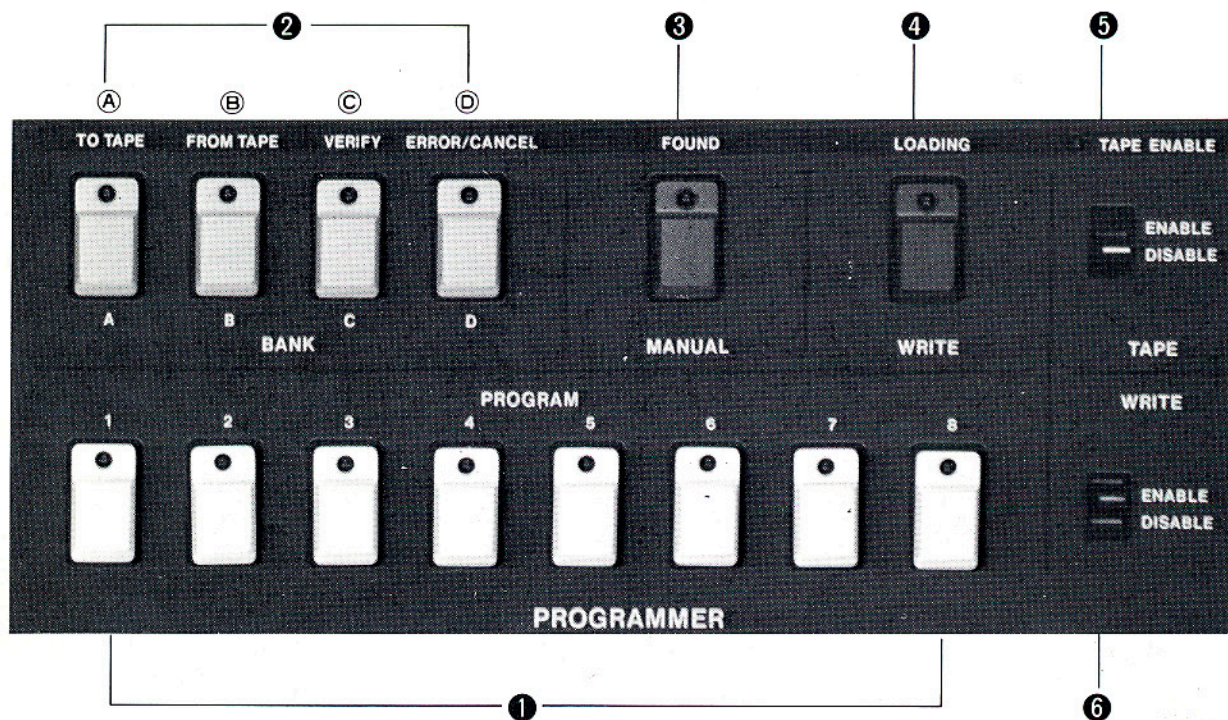


④ POLY

ポリフォニックシンセサイザーとして使うモードです。例えばドミソドミソと順番に弾いていった時は VCO1 がド、VCO2 がミ、VCO3 が

ソというように弾いた順番と鳴る VCO が対応します。6音以上弾いた場合は番号が小さい VCO から順に新しい音程に入れ替わります。

PROGRAMMER



プログラマーはポリシックスの頭脳とも呼べるセクションです。音色を記憶したりテープとデータを出し入れする働きがあります。

① PROGRAM

② BANK

ポリシックスにはあらかじめプログラムされた32種類の音が入っています。BANK (AからDまで)とPROGRAM (1から8まで)でプログラムされた音を選んでください。

自分で音をつくったりプログラムされた音を修正したい時はマニュアルモードとエディット機能を使用します。

③ MANUAL

MANUAL MODEには③のスイッチをオンすると切り換わります。このモードはプログラムと関係なくパネルで自由に音づくりができます。

④ EDIT

プログラムされているセッティングを変更できるモードです。このモードにするための特別なスイッチはありません。まずエディットしたいプログラムを選び変更したいつまみを回せばサウンドは変化します。つまみをその時点の位置より+ (プラス) 方向、- (マイナス) 方向に回した時はプログラムされた値に加算あるいは減

算されます。例えばVCFのカットオフフリクエンスをエディットした場合、+方向に回せば音色は明るくなり、-方向に回せば柔かい音色になります。+方向、-方向どちらかに回しきるとプログラムされた値はキャンセルされ、マニュアルモードと同じようにそのつまみの値で指定した通りのコントロールになります。

このように修正した音色を再びプログラマーに記憶させることが可能です。詳しくはプログラムの方法を参照して下さい。

エディットモードから修正前の音色に戻したい時はもう一度PROGRAM (音色を選んだ時と同じ番号) を押して下さい。

●プログラミングの方法

ポリシックスは32種類の音色を記憶することができます。記憶できるのはつまみの頭が白いモジュール (VCO、VCF、VCA、EG、MG、EFFECTS) です。次の手順でプログラミングを行ってください。

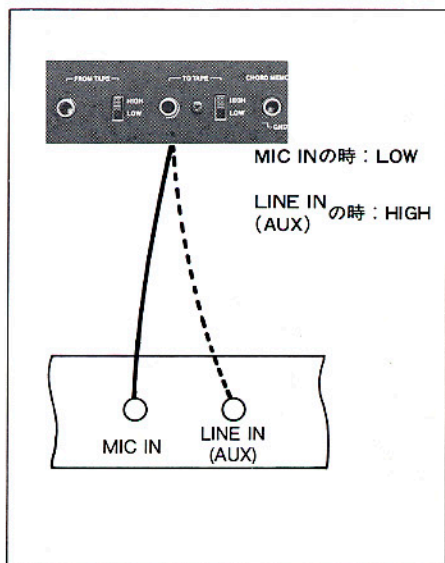
1. MANUALのモードで音を作ります。あるいはエディットモードで音色を修正します。
2. ⑥のENABLE/DISABLEスイッチをENABLEにします。

3. ④のWRITEを押します。するとWRITEのLEDが点滅し書き込み準備OKを示します。

4. 書き込みたいBANK ②とPROGRAM ①を選び、BANK、PROGRAMの順に押して下さい。これで書き込みは終了しました。

5. ⑥のスイッチをDISABLEにします。

●テープにプログラムデータをセーブする方法



1. テープレコーダーの録音ジャック (MICあるいはLINE IN) と TO TAPE のジャックを接続し出力レベル切換えをテープレコーダーのジャックに合わせて切り換えます。MICはLOW。LINE IN、AUX INはHIGHです。[録音ジャックにはミニタイプ、ピンタイプ、標準タイプなどがあり付属の接続コードやプラグアダプターを使って接続して下さい。]

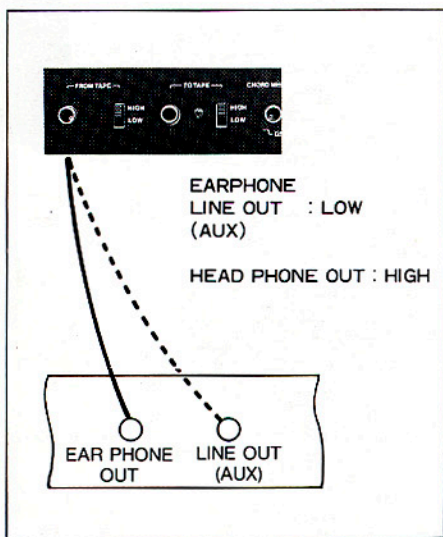
2. ⑤のTAPE ENABLEのスイッチを上側のENABLEにします。(TAPE ENABLEのLEDが点灯します) この状態では鍵盤での演奏ができません。

3. テープレコーダーを録音状態にします。テープが巻き始めの時はリーダーテープ分を早送りして下さい。

4. TO TAPE (②-④)BANK A) を押します。するとTO TAPEのLEDが点灯し①の1~8のPROGRAMのLEDが順次点灯しプログラムデータが送り出されていくことを示します。データはリーダートーン(ピーという音)が3秒、プログラムが2.5秒、エンドトーン(リーダートーンと同じ音)が0.7秒です。データをすべて送り出すとすべてのLEDは消灯します。録音は1回だけでなく安全のために数回行っておきましょう。録音が終わったらテープを止めます。

次にテープに録音したデータが正しいか元のプログラムと比較してみましょう。このプロセスをベリファイ (VERIFY) と言います。テープのデータを確認するために必ず行ってください。

●ベリファイの方法



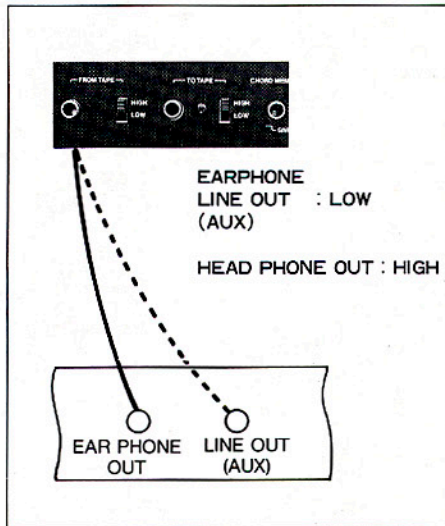
1. テープレコーダーの出力 (EARPHONE出力、LINE出力) と FROM TAPE のジャックを接続します。テープの出力レベルに合わせて入力切り換えのスイッチを選びます。EARPHONE、LINE OUTはLOW。HEADPHONEはHIGHです。端子が合わない時は付属のコードやプラグアダプターを使用して下さい。

2. テープを巻き戻してリーダートーンの頭を出します。テープのボリューム、トーンは普段聴いているレベルに合わせます。

3. VERIFY (②-④)BANK C) を押します。するとVERIFYのLEDが点灯します。

4. テープを再生状態にします。リーダートーンが終りデータ最初の部分を見つけるとFOUND (⑤)MANUAL)のLEDが点灯します。プログラムを確認することに①のPROGRAMのLEDが1~8まで順次点灯していき全データが正しければLEDはすべて消灯します。もしテープのドロップアウトなどでデータにエラーがあればERROR/CANCEL (②-④)BANK D)のLEDが点灯し、PROGRAM 1~8のLEDはエラーが出た時点で点灯したままになります。エラーが出た時はテープレコーダーのボリューム、トーンを点検し何回か作業をくり返して下さい。それでもエラーが出る場合はもう一度テープに入れ直して下さい。

●テープのデータをプログラマーにロードする方法



1. テープレコーダーの出力 (LINE OUT、EARPHONE、HEADPHONE OUT) と FROM TAPE のジャックを接続します。テープレコーダーの出力に合わせて入力切り換えのスイッチを切り換えます。LINE、EARPHONEはHIGH。HEADPHONEはLOWです。端子が合わない場合は付属の接続コードやプラグアダプターを使って下さい。

2. ⑤のTAPE ENABLEスイッチとWRITEスイッチを上側のENABLEにします。するとTAPE ENABLEのLEDが点灯します。この状態では鍵盤での演奏はできません。

3. テープを巻き戻してリーダートーンの頭を出します。テープのボリューム、トーンは普段聴いているレベルに合わせます。

4. FROM TAPE (②-④)BANK B) を押します。するとFROM TAPEのLEDが点灯します。

5. テープを再生します。データの最初の部分を見つけるとFOUND (⑤)MANUAL)とLOADING (④)WRITE)のLEDが点灯しプログラマーがデータをロードされるごとに①のPROGRAMのLEDが1~8まで順次点灯していき全データがロードされるとLEDはTAPE ENABLEをのぞいて全て消灯します。

6. TAPE ENABLEスイッチをDISABLE (下側)にします。

* もしテープのドロップアウトなどでデータにミスがあるとERROR/CANCEL (②-④)BANK D)のLEDが点灯します。PROGRAM①の1~8のLEDはエラーが出た時点で点灯したままになります。エラーが出た時はテープレコーダーのボリューム及び接続コードを点検して作業をくり返して下さい。

またテープへのセーブ、ベリファイ、プログラマーへのロードのすべてのプロセスでスイッチを押し間違えた時には、CANCEL (②-④)BANK D)を押します。強制的に動作を中断させTAPE ENABLEのLED以外すべて消灯し、もう一度作業が始められる状態になります。プログラマーへのロードの場合、もしLOADINGのLED (④)WRITE) がすでに点灯している時はプログラムの内容は変わっていますので注意して下さい。

●テープレコーダーの最適レベルの決め方

テープレコーダーの種類によって再生レベルは異なります。使用する前に次の作業を行って適正レベルを見つけて覚えておきましょう。

1. 付属していたファクトリーパッチのテープを用意します。テープレコーダーの出力端子とFROM TAPE端子を接続します。(VERIFY及びFROM TAPEを参照して下さい)

2. TAPE ENABLEスイッチをENABLEにします。TAPE ENABLEのLEDが点灯します。

3. テープレコーダーのボリュームを普通聴く程度にし、トーンはフラット (やや高音にした方がよい時もあります) にします。

4. VERIFY (②-④)BANK C) のボタンを押します。VERIFYのLEDが点灯します。

5. ファクトリーパッチのテープを入れ、再生状態にしてボリュームを下げてゆきます。ERROR/CANCEL (②-④)BANK D) のランプが点灯した所がボリュームの下限です。

6. 上と同じプロセスでボリュームを上げてゆけば上限が判ります。この上限と下限の中央が最適レベルです。

仕様

鍵盤	●61鍵(C~C)
発音数	●6ボイス (*印はプログラム及びエディット可能)
VCO*	●オクターブ切換(16', 8', 4') ●波形(△, PW, PWM) ●パルス幅/PWM感度調整 ●PWMスピード
オブオシレーター*	●OFF ●1 OCT DOWN ●2 OCT DOWN
VCF*	●カットオフリケンシー調整 ●レゾナンス調整 ●エンベロープジェネレーター変調感度調整 ●キーボードトラック(0~150%)
エンベロープジェネレーター*	●アタックタイム ●ディケイタイム ●サステインレベル ●リリースタイム
VCA*	●モード切換(EG, □) ●アッテネーター(-10dB~+10dB, 11ステップ)
モジュレーションジェネレーター*	●フリケンシー ●ディレイタイム ●レベル ●モジュレーション(VCO, VCF, VCA)
エフェクト*	●モード(OFF, コーラス, フェイズ, アンサンブル) ●スピード/感度調整
キーアサインモード	●POLY ●UNISON ●CHORD MEMORY ●HOLD
アルペジエーター	●スピード(0.2Hz~20Hz) ●レンジ(FULL, 2OCT, 1OCT) ●モード(UP, DOWN, UP/DOWN) ●ラッチ(ON, OFF) ●アルペジオ(ON, OFF)
チューン	●±50セント
ベンド	●感度調整(MAX±800セント)
アウトプット	●レベル切換(OFF, LOW, HIGH) ●ボリューム
プログラマー	●バンク(A, B, C, D) ●プログラム(1~8) ●ライト(ENABLE, DISABLE)
テープインターフェイス	●スイッチ(ENABLE, DISABLE) ●TO TAPE ●FROM TAPE ●VERIFY ●ERROR/CANCEL ●テープインジケーター×2:(FOUND, LOADING)

コントロールホイール×2	●MG ●BEND
入力ジャック	●FROM TAPE(HIGH, LOW, SW付) ●コードメモリー(⊥GND) ●アルペジオトリガーイン(⊥GND) ●VCF fcM イン(-5~+5V)
出力ジャック	●TO TAPE(HIGH, LOW SW付) ●ヘッドホーン ●アウトプット
外形寸法	●980(W)×373(D)×132(W)mm
重量	●11.5kg
付属品	●接続コード ●プラグ変換アダプター(ホーン→ミニ) ●メモリーカセット
電源	●100V, 50/60Hz
消費電力	●25W

オプション

FOOT CONTROLLER MS-01

フットコントローラー

MODULATION PEDAL MS-04

モジュレーションペダル

2ch VOLUME PEDAL FK-3

2ch ボリュームペダル

PEDAL SWITCH PS-1

ペダルスイッチ

STAND ST-2B

スタンド

HARD CASE

ハードケース

SEMI HARD CASE

セミハードケース

KORG®

京王技研工業株式会社

本社：東京都杉並区下高井戸1-15-12 〒168 ☎(03)-325-5691(代)
ショールームスタジオ：東京都新宿区新宿7-27-6 〒160 ☎(03)-208-5691

関西営業所：大阪市北区茶屋町18-21 豊崎ビル3階 〒530 ☎(06)-374-0691(代)